

山野草園だより

6号

発行：銭宝山野草の会
〒696-0401
島根県邑智郡邑南町布施321
連絡先：
森田 仁政
TEL:090-3639-2279
0855-84-0239

エビネの楽しめる5月です 今回はエビネについてのお話です



ざるめんえびね



ジエビネ

日本の野山には約20種類の原種のエビネが自生しているそうです。いわゆる俗にジエビネといわれているものです。花色は褐色系を主体に緑系・赤系・黒系など変化はありますが、葉は薄くて長さ20~30センチくらいで3~4枚、地面にひれ伏すような格好で冬を越します。左の写真は当園のもので、花色や形はその他いろいろ存在しています。今は多種多様な園芸種が販売されており、園芸種と区別するためジエビネと呼ばれています。

サルメンエビネ

北海道、本州、四国、九州、日本以外では中国やヒマラヤなどに分布。夏期、冷涼な地域で数本の株立ちで自生し、当園では花は4月中旬から5月初旬が見頃です。花は通常緑黄色で赤褐色のフリルがある唇弁をもち、その出立が猿の鼻付近の姿に似ていることから、サルメンという名前が付いたということです。またサルメンエビネを平地で栽培することが難しいと言われる理由は単に夏の暑さで株が弱るだけではなく、高温もしくはそのほかの原因で新芽の形成に障害がおこりやすくなりっぱな新芽を作れないことによるからと言われています。

キエビネ

花は日本産春咲きエビネの中では最も大きく直径5センチ前後の黄色い花を10~15花、4~5月に咲かせます。葉は通常3枚ジエビネと比較すると大きくて幅があり、葉肉は薄いです。かつてはキエビネは人里から離れた人の行き来が少ない山中に、群生して咲く姿も多くみられました。これに対し人里近くにあるいわゆる里山で他種と混在して自生する個体の中には外観はキエビネに見えても実際はジ



エビネとの雑種（タカネエビネ）がかなり含まれていると考えられています。このことは両親がキエビネの交配からしばしば褐色を帯びた個体が出現することからもうかがえます。

交配種

その他自生種とその他の交配によってできたと考えられる各種のエビネが当園でも鑑賞できます。その主なものを写真に収めてみました。園内のどこにあるか探してみられるのも一興かと思います。



昨年から黄色の水芭蕉が開花しました！

しばらく黄色の水芭蕉が開花していませんでしたが、この1、2年連続開花しています。黄色い水芭蕉はこの園では結構珍しいんですよ。ベテランのスタッフも異色の水芭蕉に触れて、大はしゃぎ！「よかったあー！嬉しい！」と子供みたいに大はしゃぎでした。久々に好きな花に出会うと、愛好者は嬉しいもんですね。

